

第1講 開講式・オリエンテーション

講師及び担当：名和田学長、山路講師、藤村（ナビゲーター）、森（サブナビゲーター）

日時：令和6年6月29日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどり一む）
参加者：10期生（14名）学長、講師、ナビゲーター、緑区社会福祉協議会、サブナビゲーター、修了生、地域振興課 合計：32名

●学習目標

1. スクール全体の主旨を理解する
2. 全6講の流れと各講座の内容を理解する
3. 横浜市における市民活動と自治会について知る
4. 自己紹介を通じて交流を深める



基調講演：名和田学長

●内容

1. 開講の基調講演「地域活動・市民活動への誘い」 講師：名和田学長
～横浜の豊かな市民社会にあなたも参画しよう～
◇自治会、地区別計画等の活動の基礎的な知識の習得
◇自治会活動の中での加入率等の実態と課題を学習
2. 「ムラの軸とトシの軸」 講師：山路 清貴
◇河川に沿って村が形成され、鉄道や道路のインフラで都市化が促進される
3. オリエンテーション 講師：山路 清貴
◇全6講の全体の流れと、目的や学び方、「夢プラン」作成の手順について説明。
◇地域づくりの着眼点と基本的な考え方。有縁社会と「居場所づくり」や「出番」について訴求
4. 運営スタッフ紹介（学長、講師、ナビゲーター、社会福祉協議会、サブナビゲーター、地域振興課）
◇パワーポイントを用いてまとめて紹介（全17名）
5. 交流会
◇ランチタイム
◇アイスブレイク：進行はナビゲーターとサブナビゲーター
◇ナビゲーターの自己紹介
◇10期生の自己紹介。
1人2分間のスピーチの体験学習。
◇修了生の紹介とスピーチ



コロナ禍を経てランチタイムが復活！
アイスブレイクに笑いがあふれた。



10期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）

◆講座の中で「印象に残ったこと」、「今後生かしていきたいこと」、「不安に思っている事」また、質問などをご記入ください。

- 名和田学長の「自治会とは何か？」の講義はとても興味深く、会員減少の対応についてもう少し詳しく聞きたかった。
- 多様性が緑区の特徴でありそれを大切にする事は地域社会を繋ぐ第1の鍵になると思います。
- 山路講師の緑区の地形と歴史を重ねたお話面白かったです。自然軸と都市化軸のクロス構造は実感しています。
- 今迄に培ったものを生かし、自分の好きなものを人と共有し、何かを生み出せる場づくりができたらと思います。
- 緑区はいろんなポテンシャルがある地域だと感じた。特に自然と都市を両立している事が強みの一つだと思っています
- オリエンテーションで「する/されるより、おたがいさま」の関係という言葉が印象に残った。
- 色々な分野の方々のお話を聞くのがとても楽しみになりました。色々な学びを得られるのでとてもワクワクしました。
- 学長の講演で「自治会・町内会の話し」、「市民活動の話し」ととても興味を持って聞かせていただきました。視野が少しくリアになった気がします。

山路講師の緑区の地形と歴史を重ねたお話しおもしろかったです。自然軸と都市化軸のクロス構造、緑区「霧が丘」に住んでいるととても感じます。



開講式（第1講）・交流会を終えて担当ナビゲーター：藤村）

- 10期生は年代が20代から80代と幅広く多世代となった事とご夫婦での参加もあり、今後が楽しみである。
- 地域活動は年齢、性別にとらわれないバリアフリー。十人十色の人それぞれ異なる個性や経験、考え方を尊重し受け入れる事が重要だと思う。多世代交流を楽しみながら自己成長を期待したい。
- 多世代のつながり、多様性を感じる「ひと・まちスクール」の運営に力を出していきたい。
- アンケートによる第1講の満足度は90.1%（昨年81.6%）最高は100%で最低は60%（昨年50%）コロナ禍を経て、ランチタイム、交流会も復活。いろんな場面を使って、横のつながり、縦のつながりを生むようなスクールを目指したい。
- 前日に音響リハーサルを実施して万全を期したつもりでしたが、隣接施設の行事の音声が混入しワイヤレスマイクの使用が不可となった（冷や汗）。急遽ワイヤードマイクに切替対応した。今後の課題として解決策を考えていきたい。

第2講 地域の資源・自分の資源を知ろう

講師及び担当：松岡講師、緑区社会福祉協議会、樋口（ナビゲーター）、高橋・後藤（サブナビゲーター）

日時：令和6年7月20日（土） 場所：緑区役所会議室
参加者：10期生（12名）、講師、ナビゲーター、緑区社会福祉協議会、
サブナビゲーター、修了生、地域振興課 合計：34名

●学習目標

1. 緑区にある施設（地域資源）を知る
2. 活動（地域に根差した居場所の広がり）を聞く
3. 自分の資源（趣味や特技、強み）に気づく



●内容

1. 第1講交流会欠席者（5名）の自己紹介
2. 緑区の資源（施設）の紹介
 - ◇緑区社会福祉協議会・地域ケアプラザ 緑区社会福祉協議会より
 - ◇緑区市民活動支援センター「みどりーむ」 運営委員長より
 - ◇緑区ウェルカムガイドの紹介 緑区地域振興課地域力推進担当より
3. 活動紹介「地域に根差した居場所の広がり」

一般社団法人フラットガーデン代表理事 松岡美子さん

【子育て支援拠点の運営に長年携わり、その後、（一社）フラットガーデンを立ち上げ、地域の居場所「レモンの庭」を作る。令和6年4月に「ダンプリングハウス」を開設。ここは餃子作りで就労支援を行う居場所。誰もがその人らしく生きられるインクルーシブなコミュニティについて話して頂いた。】

4. 自分の資源に気づこう ワークショップ *進行はサブナビゲーター（高橋・後藤）
*自分の趣味と特技を書き出し、発表した（1人2分以内）



「地域に根差した居場所の広がり」を伝える（一社）フラットガーデン代表理事 松岡美子さん



「私の得意は、趣味は」の発表。その力が地域活動の資源となることを考えるワークショップ



10期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）

◆講座の中で「印象に残ったこと」、「今後生かしていきたいこと」、「不安に思っている事」また、質問などをご記入ください。

- 地域の資源について、社協、ケアプラザ、市民活動支援センターなど今まで知っていたことに加えて、いろいろな活動を聞くことができて参考になった。本日の話を聞き、改めて既存の地域活動を活用して、自治会の在り方を考えるきっかけとなりました。
- 緑区の様々な活動や施設の紹介をいただいた。すでにこれほど、たくさんの活動があって、地域活動が支えられていることに大きな驚きがあった。大部分は全く知らないことで、地域社会のイメージが変わった。
- フラットガーデンの松岡美子さんのお話が印象深かったです。
我が子も障害を持っているので、子育てについて不安やゼロからの立ち上げの話を聞いて悩んでいるときに相談に乗ってもらえるプラットホームがあるということを知れると心強いなと思う。
- 「自分が動くと周りを動かす」このお話が印象的でした。
午後の資源出しで、みなさんの「好きなこと」「特技」を知ることができて良かった。みなさんの人となりが少しでもわかった気になり、直接会って、話すことの大切さを感じました。
- 10期生のみなさんの特技や好きなことを聞いてすごく素敵なことを持っている方が多くてとても刺激になりました。
自分のやりたいことをやってみたい！という事がたくさん増えてきて、絞りこむのが少し大変だなあと感じています。



第2講を終えて（担当ナビゲーター：樋口）

- 今回は、12名の10期生が参加され、熱心に聴講されていた。（学びのふりかえりを読むとその熱心さがわかる）
- 緑区施設の紹介（資源出し）では、緑区の魅力を紹介する冊子「緑区ウェルカムガイド」が全員に用意され、緑区に22年間住んでいる私も、改めてその素晴らしさを確認することが出来た。
- 午後に行った個人の資源出し（自分の紹介）では、十人十色それぞれが素晴らしい特技をお持ちであることが分かった。一人一人が、改めて自分の特性について考えてみるのは、とても有意義だと思う（普段中々そのような機会はない）。また、受講生同士がお互いを知り合う良い企画だったと思う。
- 10期生の中で、「人の話を聞き、理解する。話しかけたり、誘ってみたりする。悩みを聞いたり、打ち明けたりできる関係性」と感想を持った人がいる。このスキルは地域活動に不可欠なもの。ナビゲーターとしてこれらのスキルが十分に活かせるようなサポートがしていきたいと思った。

第3講 自治会活動・市民活動の話聞こう

講師及び担当：山路講師、寺山町自治会、珈琲淹れ方研究会、野場、樋口（ナビゲーター）

日時：令和6年8月24日（土） 場所：みどり一む
参加者：10期生（11名）、講師、ナビゲーター、緑区社会福祉協議会、
サブナビゲーター、修了生、地域振興課 合計：32名

●学習目標

1. 活動団体（自治会、市民活動）の発表を聞き、夢プランに纏める自身の活動のヒントを掴む。
2. アイスブレイクやナビゲーターの活動を聞くことを通し、夢プランを作る仲間づくりを行う。



発表のあとのトークセッション。自治会と市民活動のつながりや時代にあう自治会とは何かに熱のこもる意見交換が続いた。

●内容

1. 第2講欠席者（1名）の資源だし
2. 活動団体（自治会、市民活動）の発表
*進行は講師(山路)、アイスブレイクはナビゲーター(野場)

寺山町自治会 寺山町自治会会長 臼井さん



【自治会に役立つ情報を得ようとして自身もみどり「ひと・まち」スクールの5期生となり、「自治会館を開放し、サロン化する」という夢プランを作成。自治会の現状と課題、活動の中で大切にしていること、今後についての話して頂いた。特に広報、連絡ツール整備として、連絡にLINEを使い、広報としてHP、インスタグラム、Xなどを使うなど先進的な取り組みが印象に残った。】

寺山町自治会 寺山町自治会副会長 野中さん



【自治会では子ども会役員、青少年指導員、民生・児童委員などを担務され、新たな担い手発掘として、行事のお手伝いの後の役員への勧誘や、中高生4人が実行委員として活躍されたことなど若い世代の巻き込み方などを話して頂いた。自治会の魅力として仲間、場所、お金、臼井会長がいることを挙げ、今後も負担を軽減し楽しさを伝えることで新たな担い手を発掘していくと結んでいた。】

長津田みなみ台珈琲淹れ方研究会 代表 指方さん



【ひだまりバザールでみどり「ひと・まち」スクールの1期生の宮下さんと出会い、自治会イベントでひだまりバザールに出会い、みどり「ひと・まち」スクールの9期生となり、「珈琲から始まる三方良しの世間づくり」の夢プランを作成。いろんなつながりを大切に精力的に活動。一時、仕事と家族地域のバランスを崩し、家族が仕事と地域の土台だったことに気付いたという話が印象に残った。】

3. 交流会「ナビゲーターの活動を知ろう」アイスブレイク（ナビゲーター野場）

*活動のきっかけや10期生へのアドバイスなどをナビゲーターが順に発表した。



10期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）

◆講座の中で「印象に残ったこと」、「今後生かしていきたいこと」、また、質問などをご記入ください。

・すべてにおいて参考になりました。現在、当自治会でも問題になっている課題は自治会内だけでは行き詰まりますが、違う立場で意見をいただくと多くの気づきが得られると思いました。

・2つの活動が紹介されたことで広い視野で考えることができるとてもよかったと思います。

・自治会の取組で「青年部」「クラブ」という形を知ることができて、今後の自分の町の活動に生かしていきたいです。

・若い世代をどう取り込むかは日本全体の課題でもあるが、講師や出席者の皆さんから想像を超える様々な見方や現状報告があり参考になった。

・自分にできることを中心に、やってみたい事が明確にできたら地域にとっても自分にとってもうまくできる気がします。そのために自分の得意なことをきちんと知るのも大事なのだと思いました。

・若い世代の時間を奪わないようなもので、デジタル（ネット、YouTube）を活用して目に見える活動ができるといいなと思う。

・自治会役員が楽しめるようなコミュニティをつくる。カフェでもサークルでもいいと思います。

第3講を終えて（担当ナビゲーター：野場）

・今回は、11名の10期生が参加して、前半はトークセッションで活発に意見交換した。後半は交流会に楽しんで参加された。今後「夢プラン」のヒントを掴み、一緒につくっていく仲間のつながりが出来たのではないかなと思う。（学びのふりかえりを読むとその様子がよくわかる）

・活動団体（自治会、市民活動）の発表では、寺山町自治会、長津田みなみ台珈琲淹れ方研究会の活動発表があり、自治会と、自治会の中でのクラブ活動としての地域活動をされている団体の発表だったこともあり、10期生にとっても気づきが多いものとなったように思う。発表者の活動やその考え方を引き出す山路講師の進行もとても良かった。

・交流会「ナビゲーターの活動を知ろう」では、アイスブレイクやナビゲーターの活動発表を和やかな雰囲気の中で行い、横のつながりも深まったのではないかなと思う。次講からはいよいよ夢プラン作成に入るが、第3講の学びとつながりづくりがとても良い準備となったのではないかなと思う。

・10期生同士やナビゲーターとのつながりがより深まるための環境づくりとして、アイスブレイクを事前に学び、どのタイミングに何を行うと効果的か構成を考えながら司会進行を行った。この雰囲気づくりも良い結果を生んだひとつであったと思う。今後のナビゲーター活動としてこれらのスキルも活かし、サポートできればと思う。

第4講 「夢プラン」作成に向けて part 1

講師及び担当：竹迫講師、岡部（ナビゲーター）、金子（ナビゲーター）

日時：令和6年9月14日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどり一む）
参加者：10期生（12名）、講師、ナビゲーター、サブナビゲーター、見学者、
地域振興課 合計：25名

●学習目標

1. 「夢プラン」にむけて芽だし&企画づくりを意見交換し、自身の「やりたいこと」「やりたいことが実現すれば、どんな人たちのどんな未来が期待できるか？」を考える。
2. 10期生の「やりたいこと」を発表後、ナビゲーター、サブナビゲーターと共に語り合い「夢プラン」の思いの最初の一步を考える。

●内容

1. 第2講欠席者（1名）の資源だし
2. 講師とのコミュニケーションを図るアイスブレイク。「とけい」「はし」「ちょっと」「きちんと」のお題を絵に表し、書いた絵が、受け手にどのように伝わるかを全員で楽しんだ。
3. 「夢プラン」の芽出しを10期生同士でまず、話し合った。
4. 用紙に「やりたいこと」「やりたいことが実現すれば、どんな人たちのどんな未来が期待できるか？」を書いて、発表した。
5. 全員から付箋に意見や応援をもらい、10期生に届けた。
6. 「夢プラン」フォーマットの説明を受けて、用紙に「タイトル」「目的」「到達目標」「資源」について考えた。
7. ランチタイム後は、講師とひとりずつ「夢プラン」についてアドバイスをもらう時間を設けた。



私の「夢プラン」をはじめて聞いてもらうひととき。



ふたり(夫婦)で描く「夢プラン」は『なんでも有のカフェ』



10期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）

◆講座の中で「印象に残ったこと」、「今後生かしていきたいこと」、「不安に思っている事」また、質問などをご記入ください。

- みなさんの（夢プランの）話がとても素敵なことばかりで自分も共感することが多くて、皆さんとのつながりも大事にしていきたいと思います。
- （まだ）いろいろな方と雑談レベルですが、お話できてプランの方向付けまでは無理としても今、少し考えて悩んでみたいと思います。
- とにかく「アウトプット」することが大切だと感じました。これからのアウトプットで参加者のみなさんからのレスポンスで、勇気が出たり、別の視点が生まれたりすることを体感しました。竹迫さんの優しく的確なアドバイスで骨組みが見えてきました。
- （付箋）のメッセージ、とてもうれしかったです。いただいたものをパネにしていきたいと思いました。
- 「夢プラン」作成にあたって最初は不安しかなかったが、竹迫講師との相談後、将来が少し見えてきたように感じた。
- 私の漫画に対する思いをみなさんに共感していただけたのがとてもうれしいです。ただ、この活動が社会的にどう役立つのか、エコなのかとか、SDGsとか、もろもろのことを思うと少し迷ってきました。



第4講を終えて（担当ナビゲーター：岡部）

●冒頭の講師によるアイスブレイクは、お題が敢えて「ひらがな」で出され例えば「はし」を「橋」「箸」「端」と捉え一人一人の理解で絵が描かれました。何をどう伝えるかを学ぶものとなり、驚きや笑いのある和やかな時間となりました。

●「夢プラン」作成に向けて、10期生各自のやりたいことやそれは地域のどんな課題解決に繋がるかに取組ました。

今回は、コロナ禍前に戻ってランチタイム後に「夢プラン相談会」も生まれ、10期生一人一人が竹迫講師と話し合う時間がありました。「夢プラン」への迷いが消えたり、5講に向けての明るい準備ができたりしたと感じています。

順番を待つ時間も、じっくりとナビゲーター、サブナビゲーターと話すことができたことは、非常に有効な講座だったと思います。

●第4講では10期生も自分のやりたいことの輪郭が見えて来たと思いますが、更に夢プランの完成に向けて頑張ってくれたいものと期待しています。私達も続けてサポートしていきたいと思います。

第5講「夢プラン」作成に向けて part 2

講師及び担当：竹迫講師（ファシリテーター）、金子、岡部（ナビゲーター）

日時：令和6年10月5日（土） 場所：緑区市民活動支援センター「みどりーむ」
参加者：10期生（8名）、講師、ナビゲーター、緑区社会福祉協議会、サブナビゲーター、
修了生、地域振興課 合計：21名

●学習目標

4講で行った「夢プラン」作成に向けてのワークショップの復習をして、「夢プラン」を所定の用紙に書きあげる。

未完成でも構わないから、ひとりひとりが自身の考えを発表できるようにする。
また、「図」を見て思いが伝わるかをみんなから意見をもらう。

●内容

1. 午前の前半は夢プランに向けての情報交換と練り直しを行った。
4グループを作り、各グループにナビ・サブナビ・修了生が加わった。
10期生が各自作り上げてきた現状の夢プラン案を紹介し、意見や提案を交換した。こうした過程を経て、10期生はさらに進化した「夢プラン」を考えた。

2. 後半は話し言葉を「文字」化にする技法を学ぶ。

キャッチフレーズは、誰でもが、すぐ分かるように工夫する。

説明文はなるべく短く、分かりやすく書く。

目標等で期間を入れる場合は、おおよそでもいいから完了日を入れる。

～ランチタイム～

お弁当を食べながら親睦をはかる時間を設けた。10期生の中には夢プランの修正作業をしている人もいて、熱心な姿が見られた。



「夢プラン」のブラッシュアップ！10期生の「やりたい事」「目的」「どんな課題解決につながるか」熱気ある話し合いの5講となった

3. 午後からは、修了式に向けた「夢プラン」発表のリハーサル！

付箋に書かれたヒントやアドバイスの言葉が10期生を励ますものとなった。



10期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）

◆講座の中で「印象に残ったこと」、「今後生かしていきたいこと」、「感想」などをご記入ください。

- 多くの方の見方、考え方が参考になりました。プランを一からやり直すほどではありませんが、残りの時間で夢プランをブラッシュアップしていきます。後半の交流タイムに参加できずとても残念でしたが、修了式には多くの気づきを得られるよう、楽しみにしています。
- 5講の講座で、アドバイザーの方々から様々な助言を得ることができ、考え方の幅が広がりました。また、発表後の付箋のアドバイスも参考にしていきたいと思います。
- サポーター（ナビ・修了生・社協）の方々のご助言（アドバイス）がなければ、ここまでまとめることはできませんでした。あとは発表会に向けて、もっと煮詰めていかなければなりません。夢に向かってがんばりたいです。
- みなさまが続々とプランを仕上げতেきていて、やはり夢は叶えるためにあるんだなあと熱気をととも感じました。思いや熱気が強いので、とても刺激になりました。
- 竹迫先生のまとめの話にあった地縁との関係、付き合い方のこと、参考になりました。
- 竹迫先生との出会いで、自分の存在意識が軽やかに立ち上がり、楽しく発表することができました。5講は本当に楽しかったです。みなさんの表情も輝いていましたね。
- 今回も楽しかったです。会話が弾み和やかでよかったです。
- みなさんのやりたいこととお聞きしたあと、自分たちのやりたいこととつながれるのでは？と感じた。協力できることがあればしてみたいです。

第4講を終えて（担当ナビゲーター：金子）

第5講は、体調不良で欠席が多かったものの、竹迫講師の指導で「夢プラン」のブラッシュアップができ、10期生の不安が軽減されたように感じた。

グループワークには修了生も駆けつけ、10期生の思いに耳を傾け、修了生ならではの視点での意見や提案があった。

竹迫講師のまとめのことばにあった「これからの地域には『対話』と『交流』の場がとても必要だと思う。」は、私の心にも残る言葉でもあった。10期生の描いた「夢プラン」には「居場所」がある。ゆっくりと実現に向けて歩んでほしいと願っている。

第6講 修了式・「夢プラン」発表会

講師及び担当：名和田学長、山路講師、藤村ナビゲーター、森サブナビゲーター

日時：令和6年11月9日（土） 場所：緑区役所4階会議室

参加者：10期生（12名）、講師、ナビゲーター、緑区社会福祉協議会、サブナビゲーター、修了生、地域振興課 合計：29名

●修了式

- ・今年度の修了生は13名（修了式の欠席1名）、皆勤賞は8名となった。
- ・「修了証書」は名和田学長より授与された。「修了証書」の文面は個人の夢プランの内容を反映したオーダーメイドとなっている。
- ・続いて修了生代表の「答辞」
「答辞」の中で、「ひと・まち」スクールで得られた人と人との繋がり大切さを認識でき、今後の活動の確かな「財産」になった。「夢プラン」のワークショップで自分自身の考えを見つめ直す貴重な機会となった。10期生一同、その時々で思いは変化しても「夢」はいつか叶うと思い、伸び伸びと「夢」の翼を広げていきたいと結んだ。
- ・その後名和田学長挨拶、佐藤区長挨拶と続き、後半は「夢プラン発表会」を実施。

●夢プラン発表会

- ・12名の「夢プラン」の発表があった。（欠席の1名については事務局が代理で発表した。）
- ・10期生の発表は具体的なものが多く、完成度の高い内容であった。夫婦で参加した受講生は、二人で協力して作り上げるプランを発表。今迄にない斬新な取り組みであった。
- ・18歳から25歳を対象とした「夢プラン」もあり、この世代の課題をサポートしていきたいという思いに新たな「気づき」が得られた。
- ・続いて名和田学長から、個人別の発表内容に対して講評があった。山路講師からは、「『ひと・まち』スクールは市民の個性が発揮される面白い一面がある。スクールを終えても「夢プラン」が変化していても構わない」という言葉があった。



10期生への修了証書授与



10期生代表 答辞



10期生の「アンケート」より（抜粋）

- 学長、講師のみなさまの話はとても役立つことが多く、自分の考えを深めてくれたり優しくサポートしていただいたり、また意見をいただいたりと、自身の成長にもつながりました。
- とても緊張しましたが、発表に至るまで和やかで明るく楽しく過ごせました！ここまでちゃんと「夢プラン」が作成できたことに対する満足感と、来年への希望が湧いてきます。
- ランチタイムは気軽にお話ができ良かったです。以前にもあったという区内散策も興味があります。「ひと・まち」スクールに誘ってくれた修了生の方とも会えて良かったです。初めてお会いする修了生の方からのお話は、とても為になり貴重な時間でした。
- 「人と人」とのつながりの重要性を学べた。年齢を重ねると身に染みます。
- 活動の目的が何となくつかみにくかった。ただ、それでもいいのかも知れないとも感じる。何もやっても良いという狙いなのかもしれないと思った。
- 妻の影響で市民活動に興味を持つことができました。また、散歩中に修了生の方が運営するカフェを発見し、つながることができ、「ひと・まち」スクールに参加しました。非常に楽しく受講できました。今後も20年、30年と続けていただきたいです。



「夢プラン」発表会で若者支援の大切さを伝える



10期生のみなさん、修了おめでとうございます。

第6講を終えて（担当ナビゲーター：藤村）

- 開講初期の段階からラフな雰囲気があり、コロナ禍前のランチタイムの復活で顔と名前が覚えやすかった。
- 10期生の「夢プラン」は、居場所（カフェ）、再利用（家、衣服、畑）、趣味・特技（写真、動画）、興味（漫画、科学）と多種多様で面白いと思った。18歳～25歳の若者支援をテーマとした夢プラン「困難な状況にある若者が生きる希望を掴み続けられる横浜をつくる」、「若者が楽しめるコンセプトカフェ」を聞いて、経済的な困難に直面していながらも、社会資源に頼ることができない現状を知った。若者たちのサポートの必要性について考えさせられ、自身の学びにつながった。また、夫婦で参加して共通のテーマで「夢プラン」に取り組む姿は新しい形であった。
- 交流会は、昭和30年代の漫画をテーマにして和やかな雰囲気で盛り上がり、10期生同志の一体感が生まれた。これからもつながりを大事にして活動を楽しんでほしいと願う。